宮崎県支部

宮崎県における地域資源を活かした地域産業活性化の調査・研究

第１章では、本県の豊富な農水産業資源の高付加価値化について取り上げている。本県は気候が温暖で降雨量が多く、農業生産に適した自然条件に恵まれていて、野菜の生産シェアはかなり高い。ブロイラーは全国トップのシェアを誇り、豚は２位、肉牛は３位のシェアをもつ。また水産業においては、近海かつお一本釣りと沿岸まぐろはえ縄漁は全国トップである。このような恵まれた農水産業資源に、付加価値をつけてブランド品として商品化している事例を取り上げ、今後このような商品を増やし、食料産業クラスターとして異業種の連携を図り、地域ブランドを強固なものとして確立することを狙う。

第２章では、公共予算の削減や、入札制度改正などの環境変化に直面して、従来業務に加えて、新しい事業の方向を策定すべき時期を迎えている建設業について述べている。最近実施された建設業に対するアンケートによると、新しい事業方向として従来事業をそのまま継続するという意思を示しているのは約１割に過ぎず、多くの企業が新分野への進出を考えている。さらに新分野に関するアンケート結果をみると「農業分野」、「福祉分野」、「住宅リフォーム分野」などが今後進むべき方向として挙げられている。

したがって、今回は建設業が新しい事業計画を策定するに当たり、それが従来事業継続のベクトルであれ、または、新分野参入の方向であれ、いずれの場合でも必要と思われる、建設業として構築すべき「生産性向上体制」をテーマとしてみた。

第３章では、地域資源と観光産業について記述している。地域産業活性化には、地域資源を活用した複合産業で、その裾野は広く、経済波及が大きい観光産業の活性化が重要である。そこで、観光産業の現状と課題、観光資源の移り変わりを考察し、地域の特性である生活文化や伝統文化あるいは、街をめぐる歴史的経緯が重要な観光資源となり得ることを述べ、観光資源を発掘し、磨き上げる方法について提案している。

第４章では、身近の地域資源をまちづくりに活用した事例を取り上げた。

地域住民が地域の資源に誇りを持ち、創意工夫を図りながらいきいきとまちづくりに関わる様子は、域外から見ても気持ちいいものである。日南市の堀川運河をその事例として取り上げて、その歴史から、保存･再生への道筋、さらには屋根付き橋の架橋について具体的に記述している。

第５章では、杉に代表される本県の豊富な資源である山林資源等のビジネス化をテーマとして、地域資源の活用によるバイオマスビジネスについて記述している。バイオマスビジネスの現状と課題、最近の傾向を述べ、全国及び本県における事例を紹介し、さらには地域の現状に即した新たな研究開発テーマを発掘して、国や県の支援事業等を積極的に活用しながら研究･開発を進めるための提案をしている。